

MW8

# 経管栄養シミュレータ

(経鼻・経口・胃ろう)

⚠ 注意 | モデル表面に印刷物などが直接触れないようにしてください。  
樹脂表面にインクが吸収されて消えなくなります。

## 取扱説明書

### 目次



- はじめに ..... P.1  
製品の特征とご使用上の注意
- ご使用前に ..... P.2  
セット内容
- 実習の準備 (ベッドでの実習) ..... P.3～P.4
- 実習の準備 (テーブルでの実習) ..... P.5～P.6
- 実習にあたって ..... P.7～P.8
- ご使用後の後片付け ..... P.9～P.13
- 故障かなと思ったら ..... P.14



## ● はじめに

このたびは、当社の「経管栄養シミュレータ」をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。本製品は、経管栄養法（経鼻・経口・胃ろう）手技上達を目的としたシミュレーションモデルです。医学・看護教育の実習教材としてご使用ください。

## 必ずお読みください

本来の使用目的以外にはご使用にならないでください。また、取扱説明書に記載された方法以外でのご使用による万一の破損や事故に関して、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

## 特長

- 半座位の姿勢で、カテーテルの挿入や栄養剤投与といった実習が可能です。
- 経鼻栄養カテーテルや胃ろうカテーテルの位置確認に関する実習は、心窩部での気泡音聴取や注入器での胃液の吸引が可能です。（実際の胃液を吸引する事はできません）
- 解剖学的に正確な内部構造を再現し、本体の透明部分からは目視により、経鼻・経口よりのカテーテルルートや位置の確認を可能にしました。
- 実際に使用されている栄養剤の注入が可能です。

## ⚠ 注意

## ● 取り扱いにご注意ください。

特殊軟質樹脂を使用していますので、落下や強い衝撃を与えると破損の原因となります。また皮膚部の脱着の際、無理な負荷がかかりますと破損しますので十分ご注意ください。

## ● 中性洗剤又はアルコールで拭き取ってください。

モデルの汚れは水又は中性洗剤で、汚れが落ちにくい場合はアルコールで拭き、ベビーパウダーを塗布しておいてください。シンナーなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。

## ● 印刷物をモデル表面におかないでください。

モデル表面に印刷物などが直接触れないようにしてください。樹脂にインクが吸収されて消えなくなります

## ● ボールペンやサインペンで書き込まないでください。

サインペン、ボールペンなどでモデルに書き込むと、インクが吸収されて消えなくなりま

## ● 高温多湿を避けて保管してください。

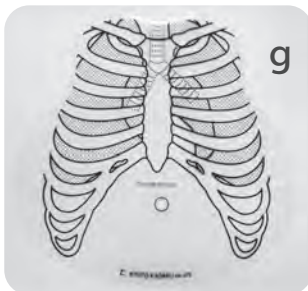
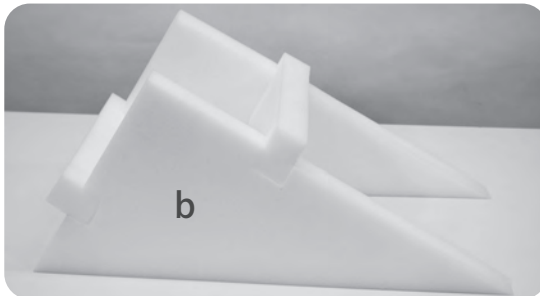
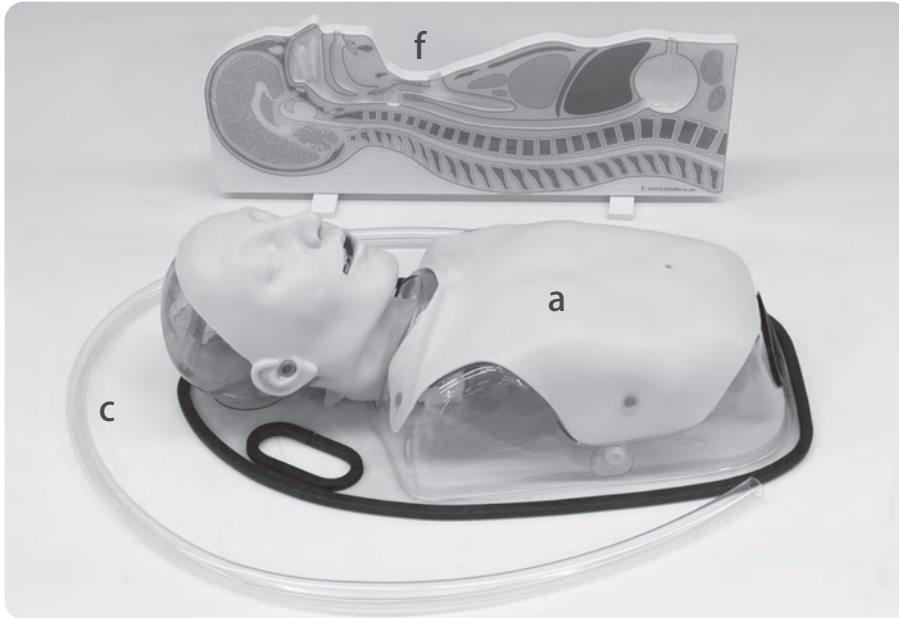
使用後は、高温多湿や直射日光のあたる場所での保管は避けてください。変形や故障の原因となります。

## ● 表面が変色する場合があります。

長期間使用されない場合や経年変化で変色することがありますが、ご使用には差し支えありません。

## セット内容と各部の名称

ご使用の前に、構成品が全て揃っているかご確認ください。



※ 経管栄養胸部シートは肋骨や肺、心臓、気管などの位置を透明シートに表示したもので、皮膚をはずしたモデル本体にかぶせて、解剖学的な骨格や臓器の位置関係を確認できる実習前の事前学習用のシートです。

- a. モデル本体 .....1台
- b. 支持台 (30° 設定).....1式
- c. 排水用ホース .....1点
- d. 漏斗 .....1点
- e. ディスポカップ.....1点

- f. 経管栄養ルートモデル.....1台
- g. 経管栄養胸部シート .....1点
- 潤滑剤 .....1点
- 取扱説明書

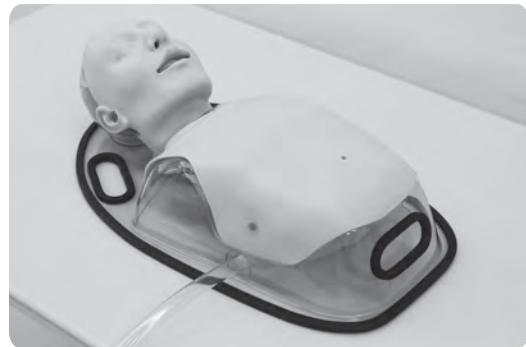
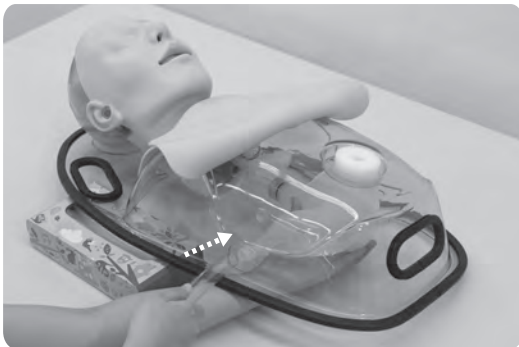
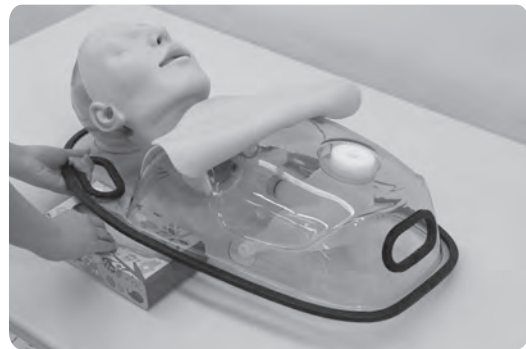
### 1 ベッドでの実習

1. 排水用ホースをモデル本体の胃のホース接続部に接続します。

(ア) まずモデル本体より皮膚部をはずして胃の部分が見えるようにします。

(イ) 次にモデル本体の手前側を少し持ち上げ、胃を片手で持って本体側面から排水用ホースをつなぎます。排水用ホースは根元までしっかり差し込んでください。

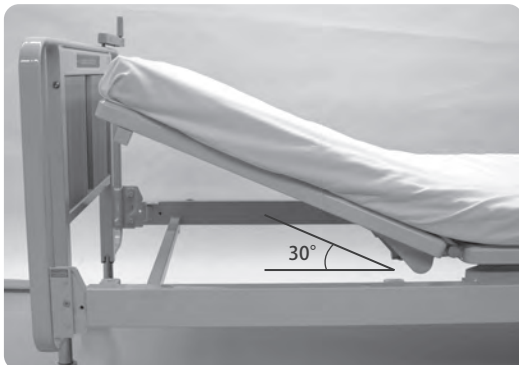
(この時、本体を持ち上げたところに箱など（例：ティッシュペーパーの箱など）を差し込んで作業をしていただくと、本体内部の胃が持ちやすくなります。)



注意

排水ホースの接続時に、胃を持ったままモデル本体の外枠を持ち上げないでください。胃と胃ろう部の蓋が外れてしまう恐れがあります。

2. ベッドを30度に拳上し、それからモデル本体をセットしてください。



### 1 ベッドでの実習

3. 排水用ホースをバケツに入れてください。バケツは別途準備してください。



4. 胃に水を注入します。皮膚を取り外してから漏斗を胃ろう部の穴に差し込み、水約 300 cc 入れてください。胃に水を注入後、取り外した皮膚をボディに取り付けると準備終了です。



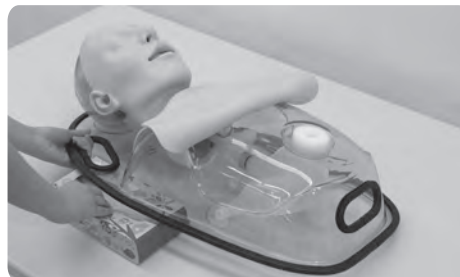
### ② テーブルでの実習の場合

1. 排水用ホースをモデル本体の胃のホース接続部に接続します。

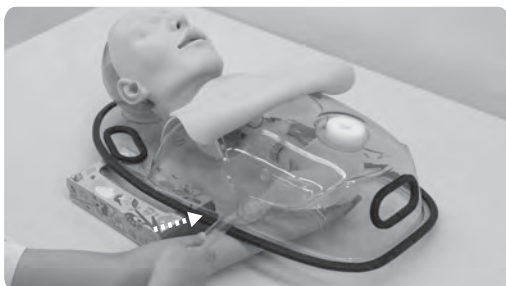
(※ここまではP3「ベッドでの実習」と同じ作業です。)



皮膚部をはずします。



モデル本体の下に箱などを差し込みます。



胃の部分を持ち。排水ホースを差し込みます。



皮膚をモデル本体に取り付けます。

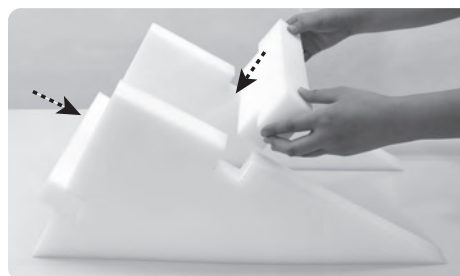


注意

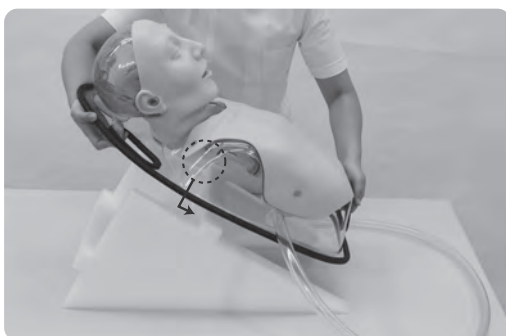
排水ホースの接続時に、胃を持ったままモデル本体の外枠を持ち上げないでください。胃と胃ろう部の蓋が外れてしまう恐れがあります。

2. 支持台を組み立てます。

三角形の板2枚を平行に並べて、切り込み2か所に支持用固定具を取り付けます。



3. 作成した支持台の上にシミュレータを置いてください。この時、○印部分が支持具にあたるようにして、モデル本体を三角形の角度に合わせて置いてください。

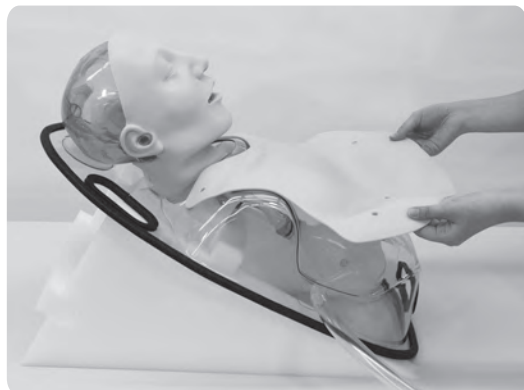


### ② テーブルでの実習の場合

4. 排水用ホースをバケツに入れてください。バケツは別途準備してください。



5. 胃に水を注入します。皮膚を取り外してから漏斗を胃ろう部の穴に差し込み、水約 300 cc 入れてください。胃に水を注入後、取り外した皮膚をボディに取り付けると準備終了です。



## 1 経鼻経管栄養法

### 1. カテーテル挿入

経鼻栄養カテーテルを挿入するときは、カテーテルとモデル本体の鼻腔内に潤滑剤を十分に塗布してください。不十分だと挿入が困難になります。潤滑剤は付属のものをご使用ください。ゼリー状の潤滑剤などは内部で乾燥凝固して残留する事がありますので使用しないでください。



注意

カテーテルは 14Fr を使用してください。14Fr よりも太いカテーテルを使用しますと、挿入困難になることがあります。  
このモデルは、挿入の長さ約 50cm で胃に到達するよう設計されています。

カテーテルのテープ固定を実習される場合、モデル本体の皮膚は樹脂製のため、カテーテル全周を巻き込む固定方法（Ω型固定）はできません。

頬部のテープ固定としては、皮膚の上に土台としてテープを 1 枚貼付した上に、カテーテルを固定する方法が可能です。

1. テープを剥離ライナー（台紙）の切り目が横になるようにおきます（横に伸びる方向です）。それから縦 5cm × 横 4.5cm のサイズとなるよう、テープを 2 枚カットします。そのうちの 1 枚をひと回り小さく切ります。（おおよそ縦 4.5cm × 横 4cm になります。）
2. 皮膚の上に貼付用は大きいテープ、カテーテル固定用は、小さいテープです。
3. 皮膚の上にテープを貼付する際、横の方が縦よりも長くなるように貼付します。そして、カテーテルを固定する際、横の方が縦よりも短くなるように貼付します。

テープ固定をされる際には、マルチポア™ / マルチポア™ ライトブラウン粘着性綿布伸縮包帯またはマルチポア™ ドライ サージカルテープ（共に 3M 社製品）を推奨いたします。



注意

テープを貼ったままの状態では片付けないでください。長時間貼ったままの状態にすると、モデル本体の表面にテープの粘着剤が吸着し、ベタつきがとれなくなってしまいます。

テープ固定してから栄養剤を投与する場合、数分経過してから実習をしてください。テープの粘着度が高くなり、よりはずれにくくなります。

テープは実習の直前に貼付してください。



## ② 胃ろう法

### 1. 胃ろうカテーテルの固定

このシミュレータでは、カテーテルはシリンジ5ml程度の空気量で固定してください。蒸留水や水などの液体は使用しないでください。

(※ 5 mlの数値はニプロ社製の20Frのボタン型バルーンカテーテルを使用した場合の目安です。他社の製品をご使用の場合はカテーテルが抜けない程度に空気を注入してください。)



## ③ 栄養剤注入後の処理

### 1. 栄養剤注入後の処理

経鼻経管栄養法、胃ろう法のどちらも続けて栄養剤注入実習を行う時は、栄養剤1パックを注入するたびに、胃の中に貯留している液体を廃棄してください。その際には、まずモデル本体をベッドの端の方に寄せて、両手でモデル本体を手前側に傾け、排水ホースより胃の中の栄養剤を排出してください。それからモデルを元の状態に戻し皮膚をはずしてから、改めて水約300ccを胃の中に注入してください。

